

2007年3月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、東シベリアからベーリング海にかけて正偏差が、日付変更線付近の30°Nでは負偏差が顕著だった。これは2月下旬から3月初めに太平洋の日付変更線付近でブロッキングが発達し、ベーリング海ではリッジ、日付変更線付近の30°Nではトラフが明瞭となった後、3月中旬まで持続したことによる。

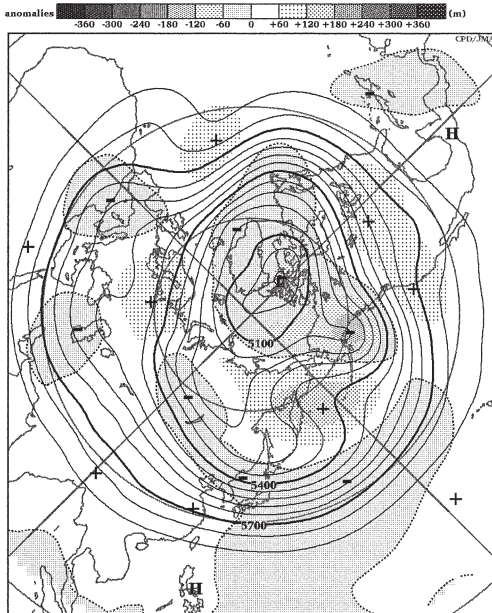
熱帯の対流活動は、海洋大陸から西部太平洋にかけて活発で、南太平洋熱帯収束帯 (SPCZ) でも先月に続き活発だった。オーストラリア北西部で3個のサイクロンが発生するなど、対流活動の活発域は全体的に南半球側に偏っていた。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋から西部太平洋にかけて低気圧性循環偏差、日付変更線から東部太平洋にかけて高気圧性循環偏差が見られた。

SOI (南方振動指数) は+0.1となった。

世界の天候

① 中央シベリア南部から中国北部の多雨



2007年3月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 陰影は平年偏差。平年値は1979~2004年のデータから作成。

中国北部では3月初めに数十年ぶりの大雪となり、交通等への被害が報じられた。

② 東日本から華南の高温

③ 中央アジアからパキスタンの多雨

パキスタンでは下旬の大雨により数十人の死者が報じられた。また、アフガニスタンでは大雨と雪崩による被害が伝えられた。

④ ロシア西部からヨーロッパ北部の高温

⑤ ヨーロッパ南部の多雨

⑥ アラスカの低温

⑦ カナダ西部の多雨

⑧ 五大湖から米国中部の多雨

⑨ 米国からメキシコの高温

⑩ 米国南東部の少雨

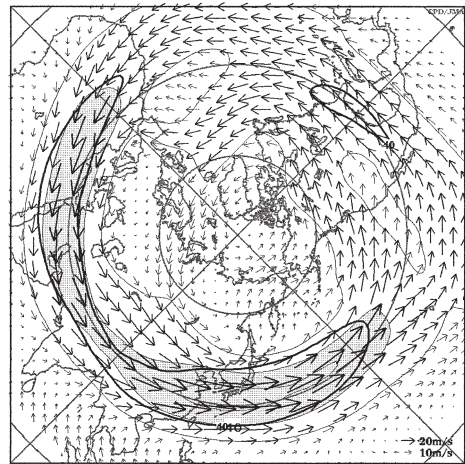
⑪ カリブ海諸国からベネズエラの高温

⑫ ブラジル東部の高温

⑬ アルゼンチン北部周辺の多雨

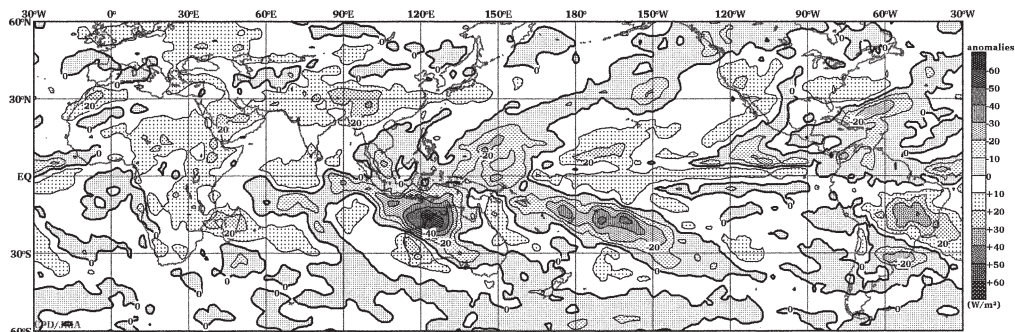
アルゼンチンのプエノスアイレス市やブラジルのサンパウロ市では大雨の被害が報じられた。

(気象庁地球環境・海洋部気候情報課)

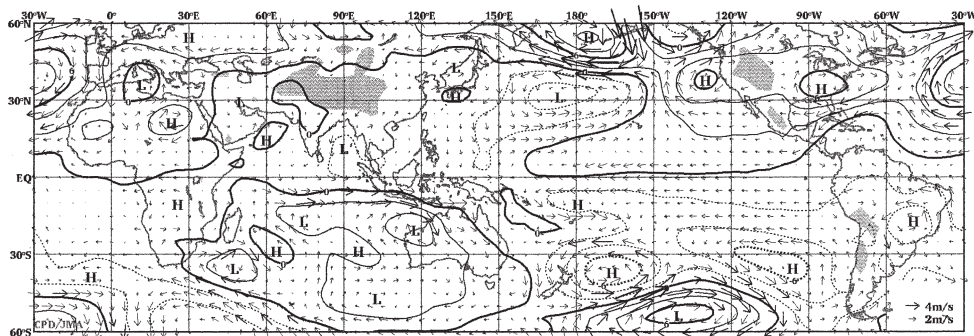


2007年3月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

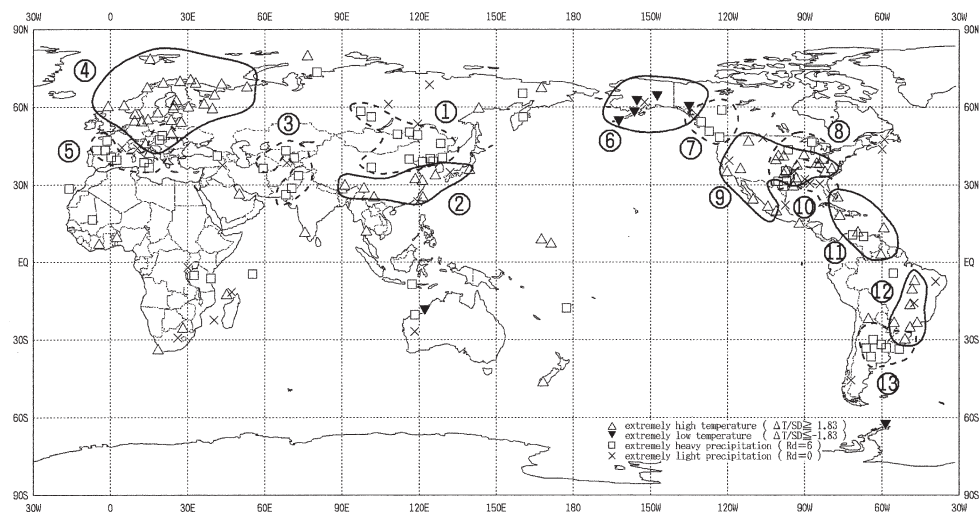
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2007年3月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA、年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2007年3月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2007年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。